

平成 30 年 上富良野町議会第 2 回定例会

一般質問 質問事項一覧

届出順	氏 名	質 問 事 項
1	6 番 金子 益三	<ol style="list-style-type: none"> 1 商工業者持続化補助金の拡充政策について 2 医療・介護・福祉の包括的拠点について
2	13 番 村上 和子	<ol style="list-style-type: none"> 1 上富良野町立病院の泌尿器科（隔週水曜日）が廃止となったが、病病連携の強化を図り、再診療、診療科目の充実を 2 障害や病気のある人に配慮の必要性を知らせる「ヘルプマーク」普及と活用で優しい町づくりを 3 働き方改革の中でも、中学校部活動のあり方の見直しをしては
3	12 番 中瀬 実	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報通信技術導入のため町と農家と連携して農業 I C T 推進協議会を立ち上げる考えは 2 移住定住について
4	9 番 荒生 博一	<ol style="list-style-type: none"> 1 十勝岳ジオパーク構想の取り組みについて 2 生活灯の維持・管理について
5	11 番 米沢 義英	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護マークの普及について 2 町立病院の運営について 3 地域医療圏構想について 4 ラベンダーハイツの運営について

一般質問通告書(平成 30 年 6 月定例会)

氏名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1 6番 金子 益三</p> <p>1 商工業や持続化補助金の拡充政策について (町 長)</p>	<p>現在町で行っている商工業者への支援策としてある、商工業者持続化補助金の拡充を行っては如何か。</p> <p>今現在は 50 万円を上限に2分の1を助成している。この政策は国が行っている小規模事業者持続化補助金への町独自の取り組みとして高く評価をする。現状としても多くの利用者があり、商店街の活性化の一助を担っている事も事実である。近隣町村においても先んじた取り組みである。利用者の声を聞くと、「改装の際に利用して便利であった」、「このような助成があるならこの機会に組みたい」など好評である。</p> <p>そこで、現在行っているこの政策の拡充を図ることが更なる商工業者の発展につながると考える。近隣町村で行っている例を挙げると、事業者への助成は200万円を上限として3分の2の助成となっている。このような枠が我が町にもあると、商工業者も大きく店舗の改修や、新規開拓の道が広がり、結果として商店街の活性化が行われると考える。今の政策では、軽微な改装や新規メニュー等の開発程度で終わってしまうが、助成枠を広げることにより設備投資や新たな分野への取り組みへとつながることが期待される。そのことにより商工会への加入メリットも大きくなり、組織の強化へと波及効果も出てくる。現在の持続化補助金の上限及び補助率を上げて、利用条件等の要綱も広げることが望ましいと考えるが如何か。</p>
<p>2 医療・介護・福祉の包括的拠点について (町 長)</p>	<p>上富良野町の福祉の状況は、健康づくりへの取り組みや、特定健診の受診率向上、特定指導の徹底に加え、町民自らの健康への関心の高さなど、他の自治体に比べても誇れるところが多い状況である。公立の病院もかかりつけとして住民の健康と生命を守り、療養型病床群から小規模老健施設への転換により医療と介護の両立も図ることが可能となった。また、保健福祉総合センターの建設により保健師と職員との連絡も密になり情報の共有が強くなっている。</p> <p>現在、特別養護老人施設のラベンダーハイツの経営が厳しい状況にあり、改革が取り組まれている。また、町立病院も</p>

	<p>平成 37 年までにスプリンクラー設置義務などの問題も抱えている現状である。</p> <p>そこで早い機会に医療・介護・保健福祉を包括的に行える拠点施設が必要と考える。我が町の医療従事者や介護従事者の確保や充実のためにも、ワンストップで住民が安心して医療から介護までを受けることができ、また医師やスタッフが患者や入所者へのケアが迅速に行えることができるような垂直型の医療介護の連携が可能な施設整備が望まれる。病院、老健、訪問看護、訪問介護、特別養護老人施設を一体化し、そこに保健師や地域包括支援などを強く結びつけることで、今以上に地域で暮らしていく安心が強まると考える。町内の医療の現状、また介護の状況を鑑みた時に、一刻も早い決断が求められるところにきている。2025 年問題への秒読みでもあり、少子高齢化が進む中において猶予がない問題と捉えるが如何か。</p>
<p>2 13 番 村上 和子</p> <p>1 上富良野町立病院の泌尿器科（隔週水曜日）が廃止となったが、病病連携の強化を図り、再診療、診療科目の充実を (町 長)</p>	<p>富良野協会病院は、保健医療資源の適正な配置、サービスの提供を整えるため地域センター病院に指定されており、富良野圏域（第二次医療圏）の地域医療を支える病院である。他の医療機関と機能分担を図り、地域に必要な診療体制を確保するとともに、地域の医療機関への医師等の派遣及び技術援助の役割を担い、地域の連携を保ち、患者様に安心して受診してもらう病院である。</p> <p>現在の上富良野町立病院の診療体制の経緯については、昭和 55 年 3 月に開院され救急告示病院に認定、平成 13 年に産婦人科診療廃止、平成 17 年 10 月に泌尿器科開設（隔週の水曜日）、平成 20 年 1 月循環器内科開設（隔週の金曜日）、平成 20 年 7 月眼科開設（隔週の金曜日）、平成 26 年 8 月眼科廃止、平成 29 年 4 月血液・腫瘍内科、肝臓内科、救急科を開設、平成 30 年 5 月 9 日泌尿器科廃止で現在に至っている。手術については富良野市、旭川市の医療機関で行っているが、今回の泌尿器科廃止については、協会病院側の組織の編成体制のためであり、病病連携の在り方を今一度話し合い、町民の医療のプライマリーケアを提供することが求められていると考えるが、医師の派遣等による再診療科目の充実を図ってはどうか。</p>

<p>2 障害や病気のある人に配慮の必要性を知らせる「ヘルプマーク」普及と活用で優しい町づくりを (町 長)</p>	<p>外見からはわからない障害や病気がある人が周囲に配慮の必要性を知らせる「ヘルプマーク」が道内でも札幌市を皮切りに順次導入されている。縦約9センチ、横約5センチ、赤地に白の十字とハートマークが描かれている。対象は難病や義肢、人口関節、妊娠初期の人などで、障害者手帳は不要で、東京都が2012年に考案したものであるが、上富良野町も「ヘルプマーク」を見かけたら優しい配慮ができるよう、普及と活用を深めてはどうか。</p>
<p>3 働き方改革の中でも、中学校部活動のあり方の見直しをしては (教育長)</p>	<p>教職員の働き方を改善するには、部活動改革は不可欠と考える。</p> <p>(1) 教員の負担を減らすためにも、教職員に代わる部活動指導員を導入してはどうか。</p> <p>今、国全体で働き方改革が進められており、上富良野中学校では、放課後部活動として卓球、テニス、サッカー、バスケット、野球、陸上、文化部として美術、書道、吹奏楽があり、指導時間は放課後4時から6時半までの間である。最近子ども達の教育環境が急速に変わり、上川管内の中学校には部活動で教員以外の競技経験者を指導者として学校に配置するなどしているが、上富良野町としてはこれらの教員に代わる部活動指導員制度の導入に取り組む考えはないのか伺いたい。</p> <p>(2) 部活動の参加回数など見直しが必要では。</p> <p>大会や練習を含めた土日祝日の活動日数は年40日以内にする、生徒や教員の負担を減らすためにも休養日は週二日以上にする、休めなかった場合は代休を設けるなど、部活動への負担に配慮する思い切った取り組みが必要ではないか。</p>
<p>3 12番 中瀬 実 1 情報通信技術導入のため町と農家が連携して農業ICT推進協議会を立ち上げる考えは (町 長)</p>	<p>昨今のICT、AI技術の進歩は目を見張るものがある。</p> <p>今後、人手不足等からGPSを利用した自動走行システムやドローンを効率よく普及させるべく、推進協議会を立ち上げる必要があると思われ、高額な機械となるため補助事業が必要と考えられるが、事業規模とニーズを把握するために前向きに検討する考えはあるか伺う。</p>

<p>2 移住定住について (町 長)</p>	<p>人口減少に歯止めがかからない状況が続く中、町長は執行方針の中で定住移住促進協議会と連携・協力して、上富良野町まち・ひと・しごと創生総合戦略を掲げ、地方創生につながるよう検討を加え取り組むとあるが、具体的に</p> <p>(1) 移住と定住、どちらに主体をおいて進めるつもりか。</p> <p>(2) 定住移住促進計画は今年度最終年度となるが、現計画の総括、移住定住のニーズの分析はどのようにするつもりか。</p> <p>(3) 移住定住の最も重要である要件、仕事の確保についての対策は。</p>
<p>4 9番 荒生 博一 1 十勝岳ジオパーク構想の取り組みについて (町 長)</p>	<p>十勝岳ジオパーク構想は、昨年度日本ジオパークネットワークへの加盟認定申請を行ったが、認定を見送られた。町のホームページで公開されている審査員の報告では、防災や教育などの取り組みは進んでいるが、協議会や事務局の運営体制、ツアーやガイドなどの実績の不足、地域の盛り上がりの不足などが指摘された。平成 30 年度は、認定申請を行っていないが、今後の取り組みについて町長に考えを伺う。</p> <p>(1) 体制強化について 協議会や事務局の体制強化について、今後美瑛町とどのように検討を進めていくのか。</p> <p>(2) ジオツーリズムの実践について ジオパークストーリーの構築とツアーの実践、ガイドの養成を指摘されたが、今年度はどのようなことを実践していくのか。</p> <p>(3) 専門員の雇用について 地域おこし協力隊員として採用した 2 名の残りの任期があと 1 年となった。活動の推進に必要な専門員の今後の雇用についての考えは。</p> <p>(4) 拠点施設と解説板について 報告書では美瑛町の「美宙」が拠点施設として位置付けられているが、上富良野町内に拠点施設を整備する考えはあるのか。</p> <p>(5) 日本ジオパークネットワークへの加盟認定申請について 次の加盟認定申請時期をいつごろと考えているのか。</p>

<p>2 生活灯の維持・管理について (町 長)</p>	<p>平成 23 年より 3 か年計画で環境対策促進事業として、地球温暖化対策実施計画及び地域省エネ、新エネビジョンに基づく住宅改修等及び生活灯 LED 化の補助を実施した。町では、3 年間で 818 基の省エネ型生活灯の新設・改修の工事費の 9 割補助を行い、町民及び町内会に対し電気料負担軽減に寄与した。これはとても素晴らしい実績と評価する。しかしながら、技術的な要因で当時対応できなかった大型の街灯を使用している本通商店街などは、LED 化施策として取り残されている現状がある。生活灯には「第 1 種生活灯」と「第 2 種生活灯」があるが、今回は商業の振興に寄与し、交通安全・防犯等公共性が高く、街並み景観に配慮された「第 1 種生活灯」についての現状を伺う。</p> <p>(1) 現在、第 1 種生活灯は何灯あり、維持・管理はどのように行われているのか。</p> <p>(2) 生活灯の LED 化の促進について、今後の取り組みをどのように行っていくのか。</p> <p>(3) 生活灯の LED 化は初期の投資はかかるが、長寿命・省エネと CO2 削減に貢献すると共に、将来的には生活灯電気料の町補助金と町内会負担が大幅に削減される。現在 LED 化未着手の生活灯に関して、新たな助成の考えは。</p>
<p>5 11 番 米沢 義英 1 介護マークの普及について (町 長)</p>	<p>国及び北海道においては、認知症の方などの介護者が介護中であることを周囲に理解してもらうための介護マークの普及を推進している。平成 29 年度においては、道内で 35 市町村が介護マークの普及を推進している現状にある。上富良野町では介護マークの普及と推進が十分周知されていないが、今後の対応について伺う。</p>
<p>2 町立病院の運営について (町 長)</p>	<p>平成 28 年 4 月に消防法施行令が改正され、病院にはスプリンクラーの設備が義務付けられた。現在スプリンクラー未設置の病院については、平成 37 年 6 月 30 日までの経過措置が設けられたが、町として今後、スプリンクラーを設置するのか、病院建設をするのか明確な答弁を求める。</p>
<p>3 地域医療圏構想について (町 長)</p>	<p>国は社会保障費の削減、医療費の削減を目指し医療・介護の一体的な見直しによる医療改革を自治体に求めてきている。医療機関の機能別で見れば、高度急性期、急性期回復期、</p>

	<p>慢性期などの病床を削減せよと迫ってきている。富良野圏域においては、全体として 23 床多いとされている。町立病院は救急医療の受け入れ、介護型の老人保健施設、一般診療などを担っていることを考えれば、医師確保など医療全体の充実が求められることはあっても、病床の削減など医療の後退はあり得ないと考えるが、次の点について町長に伺う。</p> <p>(1) 住民の高齢化に伴い、医療と介護の連携を図ることが重要になってきていると考える。町では、町立病院を取り巻く状況まとめを策定し、町立病院の今後の方向性も示されているが、町長は各項目にどのような認識を持っているのか、今後の方向性を早急に示すべきと考えるが。</p> <p>(2) 町民の健康を守る立場から、医師確保や機械的な医療の再編を止めるように国や道に訴えるべきと考えるが。</p>
<p>4 ラベンダーハイツの運営について (町長)</p>	<p>介護施設の運営には介護職員が欠かせない。現在、ラベンダーハイツにおいては介護職員の確保ができずに、一般の職員が交代で支援に行っているが、入所者へのサービスの提供に支障が出てきている状況にあると聞いており、入所や介護者などに不安を与えることがあってはならないと考えるが、今後の対応について伺いたい。</p> <p>(1) 介護職員が確保できない現状の把握及び職員が確保できない中で、入所者への介護サービス提供にどのような支障がでているのか。</p> <p>(2) 介護職員が離職する背景には多くの要因があると考えられるが、給与の改善策が示されたが不十分では。正職員への採用なども考えているのか。また、所長などの給与を町で持つなども必要では。</p> <p>(3) 介護報酬の引き下げなどの社会的な要因で赤字経営になっている要因もあると考えるが、今後の改善計画について。</p> <p>(4) 一般職員の派遣のめどは、業務に支障があってはならないと考えるが。</p>